

保育の現場では「子どもの日」を

どの様に過ごしているか

アンケートのこたえより

編集部

五月五日は「子どもの日」。子どもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」という主旨で作られた国民の祝日です。

子どもが主役である保育の現場では、「子どもの日」がどの様に考えられているのでしょうか。自分達の園ではこうだが、他の園ではどう過ごしているのか知りたい気もします。

そこで編集部では、本誌に執筆いただいた幼稚

園、保育園、養護学校の先生方に、それぞれの現場での「子どもの日」の過ごし方をうかがいました。

アンケートの形でこたえていただきましたが、ここでは、統計的なことはあまり意味のないことですので、おこたえの中からいくつかをまとめて、ご紹介いたします。

◇「子どもの日」をどの様に過ごすか

五月五日は、ゴールデンウィークに重なり、休園ということで、どの園も、その前後で何らかの子どもの日らしい活動を行っているということです。具体的には、

- こいのぼりを飾る
 - 武者人形、のぼりや武具、太鼓等を飾る
 - 花菖蒲などを作って飾る
- 等、伝統的な「端午の節供のお飾り」で雰囲気を作っている園が多いようです。園によっては昔から伝えられた武者人形等を飾るところもあれば、子ども達の手作りのこいのぼりを空におよがせるところもあり、飾り方は様々ですが、それぞれに子どもの日を祝う気持ちがこめられている様です。
- 日常の遊びの中で、子どもの日にちなんだ活動を取り入れた保育をしている園もたくさんあります。
- こいのぼりやかぶと、花菖蒲などの製作
 - おもちつきをしたり、柏餅を作ったりしてみんなで食べる

製作は、園全体で取り組んだり、クラスのものを作ったり、個人で作って持ち帰ったり、たくさん作る子がいたり、作らない子もいたり、と各園各様です。時期的に新学期が始まって日も浅い時なので、まだ生活になじめないでいる子ども達にも、みんなで作る充実感や、自分にもできたという満足感などが味わたるきっかけにもなっているということです。

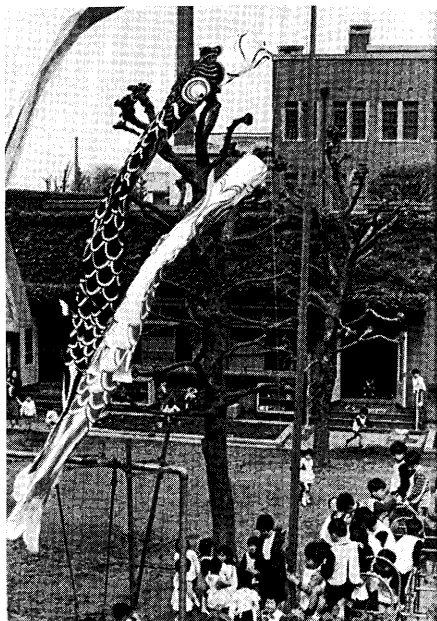
柏餅をみんなで食べる園も多く、市販の柏餅だけでなく、おもちつきや、園庭の柏の葉やよもぎで手作りする園もありました。この他、

- 子どもの日についてのお話をする
- 季節の歌をうたう
- 記念撮影をする
- 行事としてミニ運動会や、ゲーム大会を行う等、具体的なことから報告されました。中には、連休中は家庭によって過ごし方も様々なので、休みにあけに子ども達の話をお聞き、という園もあります

た。きっと楽しい話がたくさんきけるのでしょう。

◇ 園生活に「子どもの日」をどう位置づけているか

先程も書きましたように、新学期開始間もない時



『お茶の水大附属幼稚園の生活』より

ということ、どの園も、無理なく子ども達が過ごせるような保育内容を工夫しているようです。歴史の古い幼稚園の中には、無理のない過ごし方の中にも、日本文化を継承する意味で、意識的に子どもの日・端午の節供を節分や七五三、ひなまつりや他の伝統的行事と同様にとり上げている園もありました。以下、園の生活にこの「子どもの日」をどう位置づけているか、何人かのおこたえの中から、紹介いたします。

○ 「子どもの日」として特別に生活の中には入っていないが、「子どもの日」なのであっさりとしている。
(丁幼)

○ 季節感や伝統的な日本の行事を願いつつ、ともすると商業ベースにのって、その季節になるとどこも同じ様なイベントになってしまう今日、ささやかであっても、子どもが自分たちの思いや力でできる範囲のことを大人がサポートするという形で、年ごとに工夫して行っている。(S1幼)

○ 子どもの成長を祈ってという昔からのシンブルな願いを表している。(T保)

○ 鯉の様に生き生きと元気に動くことを願ひ、五月に運動会を行う。(S養)

○ 行事は子どもの生活の流れのエポックメーカーの役もあるものかと思うが、ただいかにもしくまれたという形でなく、子どもの健やかな成長を願う大人の心持ちを子どもの日常のふつうの生活の中にふくめたいと思う。(O₁幼)

○ 新入園の子どもが保育者とゆっくり活動する場所にしている。(M幼)

○ 空におよぐこいのぼりは子どもの心を解放する。(H保)

○ これをきっかけに子どもの成長をたしかめたい。ひなまつりは全園で、子どもの日は学年単位で集まって遊ぶ。(S₂幼)

○ 「私たち大人は、あなたたち子どもを愛してよ」という思いを伝える日。(S₃幼)

○ 園周辺に残された自然や昔ながらの生活習慣を子どもに知らせながら行事を楽しむ。子どもがする行事にしたい。(O₂幼)

○ 子どもの日といっても子ども自身には実感のないものかもしれないが、この季節の行事として位置づけ、それが長い年月うちに自分自身の中に「子ども」の意味が判っていければよいと思う。(K幼)

新学期が始まり、子ども達の生活もだんだんと落ちついてきたこの時期、季節は春から初夏へ。空をおよぐこいのぼりを見ながら……、今年の「子どもの日」はどう過ごしましょうか。